

# 高 伊那北高校同窓会報

発行  
伊那北高等学校同窓会  
TEL 0265(72)7312  
FAX 0265(76)5585  
http://www16.ocn.ne.jp/~inakita/  
印刷 (有)マスマタ印刷

## 年年歳歳花相似 歳歳年年人不同

同窓会会長 北原 明



同窓の皆様、その後いかがお過ごしでしょうか。

一昨年の母校創立九十周年から早2年が経とうとしています。その間、我が国は東日本大震災、政治・経済の停滞、若者の就職難、経済的格差(世間格差が追い打ち)の広がりなど、かなり閉塞的な状況が強まりました。

海外でもヨーロッパ諸国の

財政危機が深刻化しつつあり、なかなか明るい未来展望が持てないでいます。1930年代の世界史とオーバードアップするという見方もあります。当時、世界恐慌の中で、ひとときわ声高に耳触りのいい言葉を繰り返し、ファシズム体制を樹立した独裁者たちが台頭しました。結果、世界中を塗炭の苦しみへと引きずり込んでいきました。現代のポピュリズムの風潮に対してそうした危惧を指摘する声もあります。それが杞憂に終われば良いのですが。

ここに漢詩「代悲白頭翁」

の有名な一節「年年歳歳花相似、歳歳年年人不同」があります。来る年ごとに花の姿は常に同じようだが、それを見る人々はそのたびに変わっている、と。桜の老木が毎年美しい花を咲かせる季節が巡ってくる、と、九十年の星霜のそれぞれに時代に、この薫ヶ丘に青春の日々を過ごしたそれぞれに時代のことを想いませう。時代の空気を吸いながらしばしば翻弄されたことを、とりわけ戦争によって学半ばにしてその生を絶たれた方々のことを思わずには居られま

せん。「時代の子」という言葉がありますが、人は均しく時代の子である制約に生きています。しかし、すべからず時代の子でありながら、それを不可避の運命として甘受するか、時代の相剋の意味を自覚的に捉えうるか、によって生き方は違ってくるのではないのでしょうか。自覚的にということは、感傷を超えて歴史に学ぶ姿勢に連鎖していると

思います。いささか古くはなりましたが、1985年にドイツのワイツゼッカー大統領は議会での演説の中で「過去に眼を閉ざす者は、未来に対してはやはり盲目となる」と述べました。過去と未来のほごまに生きる現在の人間の自覚のありようを、これほど明晰に表現する言葉を他に探すことは難しいでしょう。この言葉は東日本大震災をも照射します。地震と津波の予知の進歩や居住のありかたについて、そしてより直接的には原発事故について。

むしろ、時代の空気というものに常に負の側面からのみ見ることが歴史ではありませ

ん。大正デモクラシーの雰囲気の中で母校が呱呱の声をあげたこと、甲子園の晴れ舞台に三度立ったこと、後輩諸君が全国高校生将棋大会(女子)で10回優勝し特に1990年からは8連覇を遂げたこと、新谷志保美選手の冬季五輪出場(スケート)、最近では英語デイベート世界大会に全国の並みいる強豪校を破って二度の出場を果たしたことなど、誇らしく語ることができません。

あと8年後には、母校は百周年を迎えます。その時を指し、母校が高校改革の課題をどう受け止め実践していくか、また耐震化もできていない現在の管理棟改築をどう実現していくか、学校側・PTA・同窓会が一体となって推進しなければなりません。同窓の皆様の一層の連帯と協力を体制を切に訴えさせていただきます。

